## 住んでる地域の・・・・

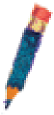
事前に調べて書き込んでおきましょう

### 最寄りの避難所は・・・

※ペット同行避難ができるか確認してください。

### 近くの保健所は・・・・

名称：



住所：

電話：

その他：

※ペットとはぐれた方や動物を保護された方も、被災地行政と警察に早急に届け出をして下さい。

お住まいの地域に「ペット同行避難対策」のガイドラインがあるかどうか、最寄りの自治体にお問い合わせください（保健所や環境衛生課など管轄は各自治体により異なります）。

災害が発生した時は「緊急災害時動物救援本部」と言う政府が認可した組織が発足します。この組織は「（財）日本動物愛護協会、（社）日本動物福祉協会、（公）日本動物愛玩動物協会、（社）日本獣医師会」で結成されています。

災害時にはほとんどの愛護団体さんが現地で動物救援活動を懸命に行われますが、中には心ない人が動物愛護団体になりすまし、寄付金や募金を募るトラブルが発生しています。寄付や募金をされる時や、動物を預けられる時、また何か依頼される時には充分にご注意ください。

避難命令が出た時は「すぐに家に戻れる」と思わずにペット同伴で非難してください。たくさんの被災者の方がすぐに戻れるだろうとペットを家に残したまま、ペットとはぐれられています。

## ●お役立ちサイト

［環境省：収容動物データー検索］　http://jawn.env.go.jp/

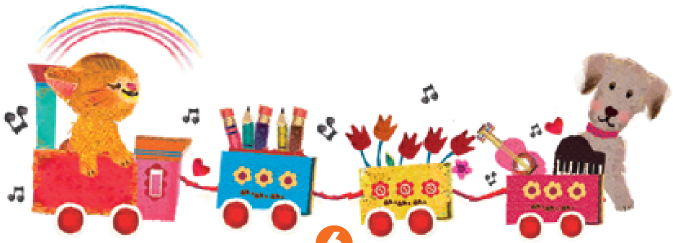
オンラインで保健所に収容された動物の検索が出来るサイトです。ネット環境がない時は遠方の家族や友達に探してもらうことが出来ます。

※このサイトは各自治体が任意で登録されています。登録をされてない自治体や猫の情報を公開していない自治体もありますので、事前にご確認下さい。

［（財）日本動物愛護協会］　http://www.jspca.or.jp/

政府が認可している“緊急災害時動物救援本部”を組織している団体のひとつ。ウェブで震災時の情報が随時公開されます。

MEMO



## 我が家の“にくきゅう🐾”です

名前：

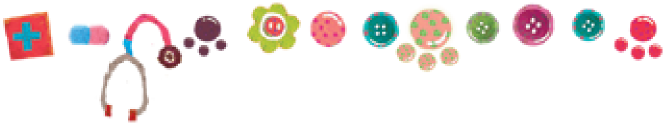
年齢：　　　　　　　才　　性別：

マイクロチップ番号：

特徴（種、色、柄、サイズ）：

獣医さん：

その他（持病や常備薬、2匹目の“にくきゅう🐾”情報）：



**※以下のポイントはご自身のペットなど比較的救助が簡単な時の参考にしてください。動物の捕獲には専門知識や道具が必要になりますので、経験者や専門家に任せ、人命最優先で避難してください。大声やカン高い声は動物を動揺させることがあります。いかなる場合でも落ち着いた態度で接してください。**

### ●犬に近づく時のポイント

- 飼い主さんであっても災害時には犬がなかなか近づいてこないことがあります。その時は決して強引に近づかず、犬が逃げようとしない距離を保ちます。そして背中や体の側面を向けて落ち着いた態度で犬を安心させて下さい。可能なら座ってください。笑顔を見せると牙を向けられてると勘違いすることがあるので注意して下さい。
- おびえている犬と目を合わせると、犬は攻撃されると勘違いします。目はそらすようにしてください。また、あくびをしたり、上唇をなめる仕草をしてください。これは犬に敵意がないことを示します。人がリラックスしている（ように犬には見える）姿を見ると、犬は自分のおかれている状況が安全であると理解します。
- 目をそらしたまま、エサやおかしを投げて与えてください。
- 犬を探す時は、大人数だと怯えて姿を見せないことがあります。犬の名前を呼ぶのは飼い主さんや少人数のほうが効果的な時もあります。可能なら見失った場所にエサと水、飼い主さんの匂いがついたタオルや衣服を置いて帰り、翌日見に行ってください。根気が要りますが可能なら数日続けてください。
- リードは簡易のリードが便利です、ロープでも作ることが出来ます。
  作り方・・・1本のロープを2本におります。輪になった方に、反対の端っこを通します。
  するとカウボーイの綱のように引っぱると締まるようなリードが出来ます。
- 尻込みをして前に進まない犬は無理にリードを引っ張ると首輪が抜けて逃げてしまいます。（犬は引っ張る力に抵抗する性質があります）前に進まない場合、お尻を押してやると前に進みやすくなります。

### ●猫に近づく時のポイント

- 猫は人には想像できない暗くて狭い場所を好みます。落ち着いた声で名前を呼んで細かい所をよく探してください。特に高いところに避難して降りられない事があるので高いところも確認してください。
- 近づくと逃げようとする時は無理に近づかないで下さい。そして猫の顔を見ながら繰り返し、ゆっくりと目を閉じたり、開いたりしてください。猫を見る時は薄目にします。そして猫が薄目になったり、目を閉じる表情を返してきたら、警戒心を解き始めている証拠です。返事をするように上の表情を繰り返してください。猫がしゃがんだり、座りだしたらさらに安心し、こちらに興味を持った合図です。この動作を根気よく繰り返し、捕まえるタイミングを図ってください。
- 猫を捕まえる時は親猫がくわえる部分（首根っこ）をつかんでください。引っ掻き防止に手袋があると便利です。
- キャリーがない場合、大きな洗濯用ネット袋があればそれに捕獲して入れてください。
- 見つからなかった場合は、見失った場所にエサや水、寝床を置いて帰り、翌日また見に行ってください。

**【注意！】** 避難中や屋外では、「心配だから」とキャリーの扉を開け、ペットの様子を見たり、撫でようとしないでください。避難途中に逃げてしまうペットちゃんが多発しています！